

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



き め こみ にん ぎょう
木目込人形

さ どう とら ぞう
佐藤虎蔵
(号 清峯)

(平成元年度作品)

16mm映画・ビデオ
カラー・17分

プロフィール

住所、荒川区南千住1-44-10。

大正4年(1915)、山形県生まれ。

昭和61年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

昭和8年、18歳のとき、人形に魅せられて上京。鷺津忠助氏に弟子入りして本格的に技術を学んだ。途中戦争で中断したが、昭和22年再び人形づくりをはじめた。人形親交会を組織し役員をつとめ、研究会をつくって人形師の弟子養成をはかり、人形展を開き検査員となって技術向上をめざした。人形づくり50年余りの年輪をほうふつと感じさせる表彰状・感謝状がいっぱい。

昭和56年に第4回東京節句人形コンクールにおいて「通産大臣特別賞」を受賞した。

「時代は変わっても、創意と工夫、伝統技術の人形は永遠です」がモットーである。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

用具・工具

石臼、針、ヤスリ、のみ、小刀、にぎり鋏、千枚通し、ヘラ、サンドペーパー、ニカワ、糊、シリコン、桐のおがくず、しょうふ糊、カキ殻。

工程 —「親王飾り」の場合—

- (1) 粘土をこねて、原型をつくる。
- (2) 原型に「シリコン」をかけて型を取る。
- (3) 「桐のおがくず」と「しょうふのり」を混ぜて「桐塑」を作る。
- (4) 桐塑をシリコンで取った型(釜)に詰める。
- (5) 型から桐塑を抜く。
- (6) カキ殻を焼き、石臼でひいてつくった胡粉をニカワで溶かし桐塑に塗る(胡粉の塗りには地塗り、中塗り、上塗りがある)。
- (7) 胡粉が乾いた「親王飾り」の一对に、木目込のための筋彫りをする。
- (8) 人形衣裳の布地を選ぶ。
- (9) 筋の溝に糊を入れ、型紙に合わせて切った布地を目打ちし、「木目込ペラ」を使って木目込む。
- (10) 素焼の頭にペーパーをかけ、胡粉をニカワで溶いて上塗りする。
- (11) 人形づくりは分業。人形の頭づくり。人形の日や口、髪のはえぎわなどを描きあげるのは、人形頭師。西日暮里6丁目の高久秀芳さんがつくる。
- (12) つぎは結髪。黒い絹糸を糊で人形の頭にはり、髪を結びあげ、まげをつくる、東日暮里5丁目の小島一男さんご夫婦。
- (13) 人形の胸に頭をとりつけ、冠、しゃくなどの小道具をつける。
- (14) 仕上げ。



(用具・工具)



(粘土で原型をつくる)



(完成した「親王飾り」)

利用される方は…………… ☎ **891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。

貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団児登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。